

平成30年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

| | |
|------|----|
| 学校番号 | 60 |
|------|----|

I 自己評価

| | | |
|---|---|--|
| 1 学校教育目標 | 1 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 2 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 3 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。 | |
| 2 評価する領域・分野 | ◇ 学校経営 | |
| 3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等 | ・学校の教育目標(92%)及び教育方針や指導(89%)に肯定的意見が増加。 ・学習指導、進路指導、生徒指導においても概ね9割の肯定的意見をいただきその数値は昨年度を上回っている。 ・特に「吉高地域キラメキ(YCK)プロジェクト」に対する保護者の認知度が高まった。 | |
| 4 今年度の具体的かつ明確な重点目標 | ◇ 地域に開かれた魅力ある高校づくり | |
| 5 重点目標を達成するための校内における組織体制 | ・企画、職員会議 ・地域連携による活力ある高校づくりワーキンググループ (WG) | |
| 6 目標の達成に必要な具体的な取組 | 7 達成度の判断・判定基準あるいは指標 | |
| ① 学校の公開や積極的な情報発信を進めるとともに、「地域連携による活力ある高校づくり協議会」等を通し、地域の要望や願いを学校経営に反映します。 ② 「普通科」、「理数科」それぞれに特色ある教育課程を編成し、地域人材や地域資源を活用した魅力ある教育活動により、生徒保護者のニーズに応えます。 | ①協議会委員・学校評議員・保護者による評価 ②中学生の進路希望調査、1日入学参加者、生徒保護者による学校評価 | |
| 8 取組状況・実践内容等 | 9 評価視点 | 10 評価 |
| ・地域への情報発信 (HP, Facebook, 新聞等) ・進学型単位制移行に伴う教育課程の改訂 ・「理数教育フラッグシップ推進事業」の実施 ・地域人材の有効活用と課題解決型学習の開発 | ① 吉城高校の良さや取組を伝えることができたか ② 進路やニーズに応じ様々な科目選択ができるしくみ ③ 理数教育の充実を図ることができたか ④ 生徒に課題解決能力を身に付けさせることができたか | A (B) C D A (B) C D A (B) C D A (B) C D |
| 11 成果・課題 | ○創立70周年記念事業、文部科学大臣表彰受賞など、新聞等への露出が多くなり、本校の良さや改革の方向性を発信する機会を得ることができた。 ○学校を休業日とした古川祭への生徒ボランティアの参加、柏葉祭の日曜開催及び一般公開、吉高地域キラメキ (YCK) プロジェクトの充実と情報発信により、地域の方々から応援をいただけるようになった。 ○YCK活動や理数科課題研究が評価され国公立大推薦入試の合格者が増えた。 ▲YCK活動等による生徒の学力の三要素の伸長を評価する指標づくりが必要。 ▲飛騨地域のさらなる生徒減もあり評価が生徒募集に結び付いていない。 | |
| 12 来年度に向けての改善方策案 | ・単位制移行に伴い、YCKリーダー活動及び台湾研修を、学校設定科目「地域課題探究」、「国際理解探究」として1単位の科目として設定、評価含めさらなる充実を図る。 ・「飛騨市学園構想」に参画し、市や県、関係機関と連携しながら、地域人材育成のしくみをつくる。 | |

II 学校関係者評価

実施年月日：平成31年2月8日

| |
|---|
| 【意見・要望・評価等】 ・協議会で出された意見がしっかり反映されていると感じている。地域の各関係者の要望等に真摯に耳を傾けていると思う。 ・YCKに関わる運営には、校長先生を中心とする先生、生徒、地域の協働により、吉城高校の新しいイメージを作っていると思う。 ・「地域に開かれた魅力ある高校づくり」に取り組んでいる。その成果が年々向上していると地域にいて感じる。報道も増えているように感じるが、さらに力を入れていただくとよさが伝わると思う。 ・理数教育フラッグシップハイスクールについては方向性がまだ中学校に届いてない気がする。 |
|---|

平成30年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

| | |
|------|----|
| 学校番号 | 60 |
|------|----|

I 自己評価

| | | |
|--|---|---|
| 1 学校教育目標 | 1 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 2 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 3 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。 | |
| 2 評価する領域・分野 | ◇ 教科指導 | |
| 3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等 | ・「学習指導」全般で肯定的な意見が増えた。なかでも、多面的な評価や生徒個々の能力に応じた授業など、きめ細かな学習指導に対して肯定的な意見が多かった。 ・「総合的な学習の時間」の内容について肯定的な意見がやや低い。 | |
| 4 今年度の具体的かつ明確な重点目標 | ◇ 授業改善と学習指導の充実に努め、確かな学力を育成する。 | |
| 5 重点目標を達成するための校内における組織体制 | ・各学年会及び教科会 ・公開授業や研究授業、教科会、教員研修会 ・教育課程委員会及び学習指導委員会 | |
| 6 目標の達成に必要な具体的な取組 | 7 達成度の判断・判定基準あるいは指標 | |
| ① 基礎的基本的な知識・技能の習得を図るとともに、アクティブラーニングを推進し思考力・判断力・表現力及び自ら学ぶ意欲や態度を育てる。 ② 少人数学級や習熟度別授業、進路希望に合わせたコース設定や選択授業など、個々に応じたきめの細かい学習支援を行う。 ③ 公開授業、研究授業を計画的に行い、生徒、保護者、学校関係者による評価をもとに、ICT活用も含めて積極的な授業改善を進める。 | ① 生徒による授業評価、教員相互の評価 ②③ 授業アンケート、卒業生アンケートの評価、生徒・保護者等による学校評価 | |
| 8 取組状況・実践内容等 | 9 評価視点 | 10 評価 |
| ・研究授業や公開授業による指導力向上 ・アンケート・調査による学習活動の点検と改善 ・初期指導による高校での学習活動の定着 ・各分掌における到達目標の設定と評価 ・各教科の授業改善 | ① 授業は改善されたか ② 家庭学習時間が確保されているか ③ 個に応じた学力はついたか ④ 教育活動は円滑に行われているか ⑤ 生徒は満足しているか | A (B) C D A (B) C D A (B) C D A (B) C D A (B) C D |
| 11 成果・課題 | ○YCKプロジェクトにより地域の人材を講師に招いた授業を一部で展開できた。 ○2、3年生の普通科を進路希望別クラス編成にして2年目であるが、両学年ともそれぞれのクラスで生徒は意欲を持って学習に取り組んでいる。 ○活力ある高校づくりWGと連携をしながら、次年度の進学型単位制高校への移行を踏まえ、地域に貢献しさまざまな進路希望に対応できるよう「学校設定科目」を含む新しいカリキュラムを作成した。 ▲教員研修会や学校視察で外部からの情報を取り入れているが、新学習指導要領を踏まえた授業改善等への職員の意識を高めるための効果的なアクションに苦慮している。 | |
| 12 来年度に向けての改善方策案 | ・思考力・判断力・表現力をさらに高められるよう、アクティブラーニングやICTを取り入れた公開授業を原則として各教科で前後期各1回ずつ行い、自ら考え積極的かつ自発的に授業に参加する生徒を育てる。 ・中学校との連続性を大切にするために、研究授業においては相互の見学と意見交流の機会を設ける。 | |

II 学校関係者評価

実施年月日：平成31年2月8日

| |
|--|
| 【意見・要望・評価等】 ・教科によって少人数・コース別授業があり、学びやすく、落ち着いた様子を見せていただいた。生徒のアンケート結果では肯定的な意見が多く、学力につながればと思う。 ・中学でも主体的な学びについては課題として取り組んでいることで、課題解決型の授業を求めている。その意味で、中・高の教員が協働して、そうした授業を一つでも作り上げることはできないものだろうか。 ・アクティブラーニングを通して生徒一人ひとりが自らを理解し、自身に何が必要か何が得意かを知り、学ぶモードに移行していく姿は素晴らしい。 ・ICTの活用を積極的に行うべきである。 |
|--|

平成30年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

| | |
|------|----|
| 学校番号 | 60 |
|------|----|

I 自己評価

| | | |
|--|---|---|
| 1 学校教育目標 | 1 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 2 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 3 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。 | |
| 2 評価する領域・分野 | ◇ 生徒指導 | |
| 3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等 | ・生徒指導全般の項目に対して、現在の指導を支持してくれる保護者、生徒の数は昨年度よりも高くなっている。しかし、スマホ指導の徹底については保護者の評価は生徒の肯定的評価よりも低い。対策が必要。 | |
| 4 今年度の具体的かつ明確な重点目標 | ◇ 共感的な理解に徹し、望ましい人間関係を築く力と自己指導能力を育てる。 | |
| 5 重点目標を達成するための校内における組織体制 | ・生徒指導委員会・いじめ防止等対策検討会議 ・スクールカウンセラー・各学年会・職員会議 ・生活委員会・MSリーダーズ活動 | |
| 6 目標の達成に必要な具体的な取組 | 7 達成度の判断・判定基準あるいは指標 | |
| ① 「生徒指導の指針」「いじめ防止基本方針」をもとに、指導の共通理解、共通行動を行い、生徒の自律心、判断力、責任感を育む。 | ①いじめ防止等対策検討会議での評価 ②生徒・保護者・職員へのいじめ等迷惑調査 ③生徒・保護者による学校評価 | |
| ② 生徒の状況や情報を常に把握し、職員間で情報を共有しながら日常的な教育相談活動と生徒支援を行う。 | | |
| ③ 学校生活を通して集団の一員としての自覚と規範意識を高め、他人や社会との関係性を尊重できる個人を育む。 | | |
| 8 取組状況・実践内容等 | 9 評価視点 | 10 評価 |
| ・年間3回のいじめ・迷惑調査（生活安全調査の実施。いじめ防止等対策検討会議2回実施。 ・学年会、職員会議における配慮の必要な生徒の情報交換。スクールカウンセラーの活用。 ・日常生活指導（登校指導、交通指導、巡回指導、情報モラル指導）の実施。 | ①いじめ問題は起きても被害生徒が不登校となる重大事案は起きていないか。 ②いじめ・迷惑調査（生活安全調査）の内容を学年会・職員会議で共有できたか。 ③生徒、保護者対象の学校評価数値は昨年度より大幅に改善したか。 | A (B) C D A (B) C D (A) B C D |
| 11 成果・課題 | ○いじめ、人権侵害問題について学年会と協力し、管理職の指示の下、迅速に対応できた。 ○早期発見早期対応が連携の中で行えた。いじめ・迷惑調査での職員の問題対応報告が増えた。どんな些細なことでも見過ごさない指導が浸透しつつある。 ▲SNSに起因する人間関係のもつれが依然としてある。保護者も含めてスマホ（ネット）との適切な付き合い方を効果的に指導する必要がある。 | |
| 12 来年度に向けての改善方策案 | ・特にスマホの使い方、付き合い方に重点を置き、家庭との協力体制でスマホに依存しない生活を啓発していく必要がある。 ・教員間の情報交換を密にして、生徒の困り感や悩みに寄り添い、問題の早期発見、早期対応に一層心がけたい。 ・いじめ・人権侵害等の問題の積極的発見、見逃さない対応。 ・生徒に問題行動、交通事故等を起こさせない積極的生徒指導の工夫と充実。 | |

II 学校関係者評価

実施年月日：平成31年2月8日

| |
|---|
| 【意見・要望・評価等】 ・いじめやSNSに関する問題もいろいろな検討会議や委員会を立ち上げ、常に子供たちの行動、発言に目を向けた取組みをしているという認識がある。 ・いじめ防止等対策検討会議に出席しているが、いじめなど問題が起きたとき、情報交換など連携し適切な指導がなされている。 ・生徒の皆さんの身だしなみは整っており、顔を合わせたときの挨拶もしっかりしている。 ・スマホの使用の指導は必要。スマホ使用を否定するのではなく、適切な使用（活用）を推進すべき。 ・昨今、残念ながら児童生徒の痛ましい自死や虐待がプレスを賑わしている。教育相談の機能化も更に強化願いたい。 |
|---|

平成30年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

学校番号 60

I 自己評価

| | | |
|---|--|--|
| 1 学校教育目標 | 1 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 2 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 3 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。 | |
| 2 評価する領域・分野 | ◇ 進路指導 | |
| 3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等 | (生徒)「将来の希望に沿った具体的な進路指導」について、肯定的意見6.2%増、否定的意見5.8%減、「進路情報で生徒の可能性を引き出す」について、肯定的意見7.1%増、否定的意見4.8%減となっており、進路指導の向上がみられる。 (保護者)「進路希望に沿った適切なアドバイスをしている」について、分からないが7.2%あり、進路指導で取り組んでいる内容が十分に伝わっていないことが考えられる。 | |
| 4 今年度の具体的かつ明確な重 | ◇ 生徒が前向きに将来にわたる進路を設計できるように支援する。 | |
| 5 重点目標を達成するための校内における組織体制 | ・進路指導部 ・進路指導委員会、小論文等指導委員会、学習指導委員会 ・キャリア推進部、活力ある高校づくりワーキンググループ、各学年会との連携 | |
| 6 目標の達成に必要な具体的な取組 | 7 達成度の判断・判定基準あるいは指標 | |
| ① 生徒が自己の適性や能力を理解し、生きがいをもってライフプランニングができるよう望ましい職業観や人生観を育成する。 ② 高大接続改革に対応し、3年間を見通した進路指導計画(補習、模試面接小論文指導等)を確立して生徒の進路実現を支援する。 ③ 生徒、保護者、職員にとって必要な進路情報を提供するとともに個に応じた支援を行う。 | ①進路希望調査の結果や説明会等での生徒感想文 ②センター試験出願者数、大学合格実績、公務員合格率等 ③各種調査及び模擬試験等の結果 | |
| 8 取組状況・実践内容等 | 9 評価視点 | 10 評価 |
| ・面接・小論文指導を早期にスタートし、全教員による個別指導を充実させ、生徒自身によるグループでの面接練習で主体的な態度を育てる。 ・小論文講座、現代フォーラムの小論文コンテストや小論文ニュースを効果的に活用する。 ・YCKプロジェクトの様々な活動への参加・振り返りで自分の在り方や生き方を考え、進路希望を実現する。 | ①できるだけ早い時期に進路目標を設定できたか。 ②情報を分析して、自分の意見をまとめる力がついたか。 ③本校のきめ細かい進路指導とリンクできたか。 ④希望する進路を選択・実現しているか。 | A B C D A B C D A B C D A B C D |
| 11 成果・課題 | 総合評価 A B C D | |
| 12 来年度に向けての改善方策案 (根拠) 生徒が主体的に将来にわたる進路を設計できるように、より計画的により組織的に支援する。 (手立て) 総合的な探求の時間でのキャリア教育を充実させる。教務部やキャリア推進部、活力ある高校づくりワーキンググループとの連携が不可欠である。 (見通し) 今年度1年生のYCKプロジェクト「大人と語ろう」や3年生の「進路決定者フォーラム」では地域の大人から働き方や生き方を学んだ。2年生でもファシリテーションについて学びながら地域の抱える課題について深く知る機会を企画することで、キャリア教育を充実させたい。 | | |

II 学校関係者評価

実施年月日：平成31年2月8日

| |
|--|
| 【意見・要望・評価等】 ・具体的な指導内容は外部からわからないが、卒業生の進路を拝見すると大変多岐に渡っている。四大、短大、専門学校、就職という大きな分類はもとより、専門学校においてもその分野は多種多様である。生徒が定めた各々の目標に対してしっかり対応させている結果だと感じる。 ・土曜講座(吉城ゼミ・補習)など、学校独自の支援が行われています。進路情報がHPで更新されていてよくわかる。来年も「大人と語る会」を継続してほしいと思う。 ・本年度の課題を読むと「考えられない生徒が増えてきた」とある。総合的な学習の時間の取組みなどが、どのように生徒の主体的に進路決定する力に結びついていくのか、検証していく必要がある。 |
|--|

平成30年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

| | |
|------|----|
| 学校番号 | 60 |
|------|----|

I 自己評価

| | | |
|--|---|-------------------------------------|
| 1 学校教育目標 | 1 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 2 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 3 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。 | |
| 2 評価する領域・分野 | ◇ 特別活動部 | |
| 3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等 | ・学校行事、生徒会活動、部活動関連の項目で肯定的な回答をする生徒の割合が増えており、学校における様々な活動に意欲的に取り組む生徒が多くなっていることがうかがえる。 ・「学校行事を参観する機会を多く設けている」、「(子どもたちの)成長の糧となるような学校行事等を行っている」と回答する保護者の割合も増えており、学校の情報発信の成果が現れている。 | |
| 4 今年度の具体的かつ明確な重点目標 | ◇ 互いに支え合う関係を構築し、好ましい人間関係を作り上げ、豊かな人間性と思いやりのある行動力を育てる。 | |
| 5 重点目標を達成するための校内における組織体制 | ・部活動運営委員会、生徒派遣審査委員会、学校徴収金運営委員会 ・IAO14001推進委員会、人権教育委員会、いじめ防止等対策検討委員会 | |
| 6 目標の達成に必要な具体的な取組 | 7 達成度の判断・判定基準あるいは指標 | |
| ① ホームルーム活動を中心に、生徒会活動、部活動、委員会等の諸活動を通じて、集団としての自覚を深め、望ましい人間関係の形成を支援する。 ② 生徒会活動を活性化させ、生徒会行事の充実を図る。 ③ 部活動に目的意識を持って、自主的・自発的に参加できるように、部活動の活性化を図る。 | ①②球技大会及び柏葉祭等の生徒会行事への取り組み状況、アンケートの実施とその結果分析 ③部活動予算及び備品請求の配分・部活動参加人数、入部状況・部活動実績・活動場所及び施設使用状況 | |
| 8 取組状況・実践内容等 | 9 評価視点 | 10 評価 |
| ・様々な生徒会行事に向けて執行部会等諸会議を開催 ・広報活動により校外へ積極的に情報を提供 ・部紹介、伝達表彰を実施するとともに、部活動費及び備品費を適正に配分し、活動環境を整備 | ①球技大会・柏葉祭等の諸行事に達成感を味わらせることができたか。 ②校外外で行事への取り組みの理解や支持を得ることができたか。 ③目的意識を持って、積極的に部活動に参加させることができたか。 | A (B) C D A (B) C D A (B) C D |
| 11 成果・課題 | ○文化祭の来場者数が初めて一般公開をした昨年度よりも増加した。広報活動が学校行事の活性化につながり、多くの生徒も様々な学校行事に主体的に取り組む、達成感を感じる事ができた。 ○写真部の全国大会出場、陸上競技部の東海大会出場に見られるように生徒が、部活動に意欲的に取り組み、多くの成果を挙げることができた。 ○70周年記念式典や、YCK報告会において生徒会役員が積極的に運営に参画した。 ▲全ての生徒が自分たちの学校生活の改善に向けて高い意識を持ち、課題解決に向けて話し合い、主体的に行動できるための環境作り。 | |
| 12 来年度に向けての改善方策案 | | |
| 生徒たちが自らの成長を感じ、学校生活において充実感を得るために、生徒議会や生徒総会を活性化するなど生徒たちが話し合い、自分たちの目標を設定・実現するための話し合いの場所や環境を整備し、生徒たちが主体的に学校行事や部活動の運営に取り組んでいけるようにする。 | | |

II 学校関係者評価

実施年月日：平成31年2月8日

| |
|---|
| 【意見・要望・評価等】 ・柏葉祭を一般開放し地域の方に見てもらうことで、生徒たちの意欲が出てきて、活発化してきている。 ・柏葉祭の取組みに感心します。これらの生徒会行事を通して、団結力・協調性が育まれることと思う。 ・部活動、生徒会活動、YCK、柏葉祭など、写真や紙面を見て、子どもたちの達成感が伝わってきた。急には無理だと思うが、やはり部活動で活躍する生徒を見ると学校自体が脚光を浴び、魅力の一つになるのではないかと思った。 ・70周年記念式典やYCK活動発表など、生徒が積極的に運営している姿が素晴らしい。 ・特に生徒会活動の活性化を望む。 ・全てにおいて自発的な活動を。 |
|---|

平成30年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

学校番号 60

I 自己評価

| | | |
|--|--|-------------------------------------|
| 1 学校教育目標 | 1 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 2 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 3 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。 | |
| 2 評価する領域・分野 | ◇ キャリア教育 | |
| | ◇ | |
| 3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等 | ・外部人材を活用し、飛騨市等と連携してプロジェクトを推進した。 ・学校評価アンケートによるYCK活動に対する評価について、保護者・生徒の肯定的評価が、昨年度の79%・85%から今年度は85%・95%と増え、活動に対する理解が深まっている。 | |
| 4 今年度の具体的かつ明確な重点目標 | ◇ 「地域に根付いた地域に愛される地域に貢献できる学校」の具現を通し、課題解決能力身を育てる。 | |
| 5 重点目標を達成するための校内における組織体制 | ・キャリア推進部の中にキャリア教育コーディネーターを配置し、学校・行政・地域との連携を図る。 ・LHRと「総合的な学習(探究)の時間」を併せた運用について、他の分掌と連携し、指導計画及び指導体制を整備する。 | |
| 6 目標の達成に必要な具体的な取組 | 7 達成度の判断・判定基準あるいは指標 | |
| ① 地域課題解決型キャリア教育である「吉高地域キラメキ(YCK)プロジェクト」を通して、課題解決能力と主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を育てる。 | ①YCKプロジェクトへの生徒参加人数、振り返りシートやESDパスポート等のポートフォリオ ②プロジェクトリーダーによる振り返り、キャリア教育指標による評価 ③進路実現につながった生徒の様子 | |
| ② 「総合的な学習の時間」等を有効活用し、生徒一人一人の社会的・職業的自立を促すとともに、社会の中で自らの役割を主体的に果たそうとする態度を育てる。 | | |
| 8 取組状況・実践内容等 | 9 評価視点 | 10 評価 |
| 【プロジェクトリーダー研修】2ミッション(10名) 【課外活動・地域観光】7活動(254名) 【課外活動・地域福祉】6活動(260名) 【課外活動・地域教育】8活動(141名) 【課外活動・地域防災】5活動(220名) 【授業・総合的な学習の時間など】6活動(516名) | ①YCKプロジェクトにどれくらいの生徒が参加しているか、適切な振り返りができているか。 ②YCKリーダーの課題解決能力と主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度が育っているか。 ③進路実現につながっているか。 | A (B) C D A (B) C D A (B) C D |
| 11 成果・課題 | ○文科省「実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究」 ○ユネスコスクール加盟の認可 ○平成30年度「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰 ○地域連携の内容を整理し、生徒が目的意識を持って活動できるパンフレット作成 ○生徒募集から振り返りまで、適切にプログラムを実施するための業務フロー整理 ▲全職員が生徒の成長を観守る体制整備、各分掌で連携した来年度プログラム作成 ▲中学生や地域に興味を持ってもらうための、積極的な情報発信 ▲全体の質を下げないように、メリハリのある「振り返り」と「フィードバック」 ▲3年間で進路実現への可能性を広げ、選択ができる仕組みの構築 | |
| 12 来年度に向けての改善方策案 | ・学校が目指すべき姿を設定し、YCKプロジェクトを含めた学校行事を対応させたマトリックスを作成する。 ・業務フローを可視化し、担当者が替わっても安定して効率よく運用できるような仕組みマニュアル作成する。 ・課題プログラムを精選し、運営主体を明確にした来年度の年間計画パンフレットを作成する。 ・生徒が活動の前後で自身の成長を可視化できるように、「学びみらいPASS」導入を検討する。 ・課外活動プログラム等への参加申し込み状況を、生徒と職員に確認して共有できるよう工夫する。 ・生徒が自走できる学校チームづくりに向け、ボトムアップ理論に基づいたコーチングの職員研修を実施する。 | |

II 学校関係者評価

実施年月日：平成31年2月8日

| |
|---|
| 【意見・要望・評価等】 ・YCKプロジェクトは大変素晴らしい取組みである。加えて内容的にも年々充実が図られていると感じ、何より地域の方の認知度が当初より著しく高まっている。内容の充実だけでなく、地域の認識・協力が深まってこそ協働活動であるため、非常に良い方向へ進んでいると思う。広報活動にも注力された結果だと思う。 ・生徒が地域の大人と関わり、貢献できたことへの喜びを感じることで得られるものは、子どもの将来に大きく関わるものと思う。 ・YCKプロジェクトは全生徒2ミッション以上の参加が望ましい。 ・リーダー研修に参加することはやはりハードルが高いと思うが、その他の課外活動には本当にたくさんの生徒が取組み、これが入試や就職に有利に働くよう学校が進めていかなければならないと思う。 |
|---|

平成30年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

| | |
|------|----|
| 学校番号 | 60 |
|------|----|

I 自己評価

| | | | | |
|--|---|--|-------------------|--|
| 1 学校教育目標 | 1 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 2 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 3 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。 | | | |
| 2 評価する領域・分野 | ◇ 健康安全指導 | | | |
| 3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等 | ・清掃に関しては、保護者・生徒ともアンケート結果も向上し、生徒のみならず職員の美化意識も向上したと考える。 ・健康管理については、養護教諭を中心に、各検診・検査の事後指導等生徒の健康管理面については常に配慮できている。 ・安全・衛生面では事務部との連携により、早めの対応ができています。 ・防災に関しては、全般に危機管理意識が向上しつつあると考える。 | | | |
| 4 今年度の具体的かつ明確な重点目標 | ◇ 自らが健康で安全な生活を営む能力や態度、環境美化を通じて豊かな心を育成する。 | | | |
| 5 重点目標を達成するための校内における組織体制 | ・学校保健安全委員会、安全衛生委員会 ・生徒保健委員会、生徒環境委員会、HIROMI点検係、防災リーダー | | | |
| 6 目標の達成に必要な具体的な取組 | 7 達成度の判断・判定基準あるいは指標 | | | |
| ① 健康診断や防災教育を通じて、自らが健康で安全な生活を営む能力・態度の育成を図る | ①健康診断受診勧告者受診率、命を守る訓練の取り組み状況、災害図上訓練実施前後比較、非常変災時帰宅確認報告率。 ②生徒委員会、職員による清掃状況チェック。 | | | |
| ② 日々の清掃活動、マナー教育(公共施設の利用)を通じて、豊かな心の育成を図る。 | | | | |
| 8 取組状況・実践内容等 | 9 評価視点 | 10 評価 | | |
| ・生徒個人への受診勧告、健康相談、保健だより等での健康面の啓発活動。ストレス・インフルエンザに関する昼放送。 ・職員・生徒への事故防止の周知徹底、体育授業時、部活動時における事前指導及び点検。 ・月1回の職員による安全点検・非構造部材の日常点検、職員と生徒による教室環境衛生点検・トイレ環境衛生点検、生徒によるHIROMI点検での教室環境への整備意識づけ、職員による行事前清掃点検。環境委員によるゴミの分別収集と季節環境整備(草むしり、落葉清掃)、トイレ使用マナーの励行。 ・命を守る訓練。防災リーダーによる災害図上訓練。 ・災害時備蓄品(全校生徒3日分、育友会より支出)の整備。 | ①生徒の健康管理 ②事故防止 ③安全管理、環境整備 ④防災 | A (B) C D A (B) C D A (B) C D A (B) C D | | |
| 11 成果・課題 | ○健康診断受診勧告者受診率については、養護教諭を中心に、各検診・検査の事後指導等生徒の健康管理面に早めの対応し、向上した。 ○防災に関しては、2年生防災リーダーが中心となり2学年普通科対象による災害図上訓練を行い、減災力テストの結果が目標値に大きく近づいた。また、本年度岐阜大学より高校生防災リーダー養成事業にて最優秀賞を頂いた。 ○清掃に関しては、生徒委員、職員による各種点検などを行い、本年度行事前清掃点検として事前予告及び放送連絡を行い取り組ませたことが生徒のみならず職員の美化意識も向上したと考える。また、全職員による安全点検、非構造部材の日常点検により、事前に危険箇所等迅速な対応ができた。 ○本年度、職員更衣室の設置が実現した。 ▲命を守る訓練には、全生徒真摯に取り組んでいる。非常変災時帰宅確認報告率は例年並みであったが、実施する日程が適当かどうかを検証する必要がある。 ▲トイレ使用マナーがまだ十分とは言えない。マナー教育が課題である。 | | 総合評価 A (B) C D | |
| 12 来年度に向けての改善方策案 | ・様々な災害時に対応できるための命を守る訓練の充実化を図り、常に最新情報を取り入れた災害図上訓練を実施することによる危機管理能力を向上させる資質を養う。 | | | |

II 学校関係者評価

実施年月日：平成31年2月8日

【意見・要望・評価等】

- ・総合学習での「災害図上訓練」は大切なことである。災害時の備蓄品もすでに整備されていることを知り安心した。
- ・「飛騨は安全・安心」といったことがない時代であるため訓練は不可欠だと思う。ただ、一番に訓練しなければならないのは先生方であり、先生方の誘導次第で危険度がかなり変わってくる。重視をお願いしたい。
- ・職場では安全にまさるものはない。健康で安全な生活への意識付けをさらにお願したい。

